

ぜひ芝居を  
観に来てください。



児玉 敏 さん (高玉地区)

# 輝く地域の力 白鷹の未来を彩る

## 町指定無形文化財

### 高玉芝居 高栄会

… 地域の伝統芸能を守るために …

**高栄会** 座長の児玉敏 (嵐 千ノ助) さんにお話を伺いました。

**高栄会とは**  
明治の頃、蚕桑地区の高玉には歌舞伎や浄瑠璃などもあったそうです。そうした高玉に伝わる芝居を通称で高玉芝居と言い、その高玉芝居を演じる団体が高栄会です。高玉が栄えるようにという意味が込められていて、今の座員は15人ほどです。

**入座のきっかけは**

昭和49年に21歳で入座しました。子どもの

頃はチャンネルが好いで、テレビで時代劇などをよく見ていました。

自宅隣の神社では秋祭りに必ず芝居が公演され、役者が持つ刀や、化粧の雰囲気は憧れました。芝居は遠いものではなく身近な存在であつたため、いつか舞台に上がりたいという気持ちで醸成されたのだと思います。ちなみに私の初舞台のセリフは親分に声を掛けられた時の返事「ハイ」だったんですよ。

**2年ぶりの公演は**

公演は約2年ぶりとなりました。コロナ禍なので掛け声も控えるようにという約束でした。お客様との駆け引きはできないものの、笑いや温かな拍手を頂きましたのでそれなりの反応があつたと思います。久しぶりなので私たちも不安でしたが、いざ幕が開くとすぐ役柄に感情移入ができ、お互いの呼吸も合

い、閉幕まで進んで安堵したのを覚えてます。

役者の芸名は、座長が考えます。女の子は本名を使う場合が多く、基本は市川姓です。それ以外では、嵐、若葉などの姓があります。

**今後は**

一番考えていることはとにかく座員を増やすことです。メディアの普及により、若い方の目がそちらに向いています。このような中で若い方々には、とにかく昭和の香りがする高玉芝居を見ていただきたい。そしてぜひ入座を希望する方が現れたいと思っています。

入座の募集は随時行っていますので、高玉芝居に興味のある方は、蚕桑地区コミュニティセンターにご一報いただければ幸いです。

**取材を終えて**

地域づくりを一つの演目と捉えるならば、配役は地域の皆さん一人ひとりなのかもしれません。(丸川)

**議会へひとこと**

芸能を通してコロナ禍という消極的な雰囲気から笑顔を取り戻す、明るい気持ちになつてもらえるような役割を担いたいと思いますので、今後ご支援を頂ければと思います。(丸川)



一新された緞帳 (どんちよう)

**編集後記**

明けましておめでとうございます。気象庁によれば、この冬はラニーニャ現象が続く見込みで、日本列島には、シベリアからの寒気が流れ込みやすくなり、寒い冬になる傾向が強いということ。寒いのが当たり前の冬、この先はどうなることやら。

さて本町では、新年度より0歳から2歳児の保育料が無償化となり、すべての年代の保育料無償化がスタートします。またひとつ子育て支援事業が増えました。県内の自治体では初めての事業ということなので、周知を徹底していただき、出生数はもちろん、結婚件数の拡大にもつながるよう望みます。(丸川)

**広報委員**

- 委員長 原 俊一
- 副委員長・編集長 金 田 悟
- 委員 丸 川 雅 春
- 委員 竹 田 雅 彦
- 委員 横 山 和 浩
- 印刷・長谷川印刷

